東京鳥取県人会 新入会員歓迎会開く

68人が入会 多彩な顔触れ



東京鳥取県人会の新入会員歓迎会が8月31日、とっとり・おかやま新橋館の「ももてなし家」で開催されました。今期入会された68名のうち2319人の新入会員と、人の県人会役員の総勢42人が参加。

歓迎会では、総務、広報、交流の各部会が鳥取県人会の活動内容を説明し、「総会及び懇親の集い」「新年賀詞交換会」「歌舞伎鑑賞会」など特色のある多様な取り組みを紹介しました。

新入会員は若手から年配までさまざまで、弁護士、フリーアナウンサー、教員など多彩な方面で活躍されています。新入会員の自己紹介は次の通りです（順不動、敬称略、自己紹介の名前にある番号と同じ数字を同一人物として写真にふっています）。

①安川洋介　東京境港会にてお声がけいただきました。

②伊井進　ふる里鷲が峰会世話役の橋野泰久様のご紹介で入会させていただきました。鹿野中学を昭和46年に卒業し、高校、大学は東京です。定年退職前から地域で書を教えています。「伊望会（いぼうかい）」を主宰し、都内3カ所に教室を開いてます。お弟子さんのなかには、演歌歌手や吉本の芸人さん、日本舞踊家などもいます。地域活動もやっており、「大和町文化財を守る会」、「しゃべって良員会（いいんかい）」に所属してます。また、大和ギャラリーの季節のホールを飾りの責任者も務めてます。中野区シルバー人材センターでは大和班の班長で70名超のメンバーの世話役です。

③井上勉　勝部日出男県人会前会長のご紹介。東京米城会（米子東高校の在京同窓会）、関東鳥取県稲門会（早稲田大学）、東京鳥取県人会、郷土の会の三刀流で相乗効果を出して、人口減でも活性化のお力になれるよう努めて参ります。

④横井博之　1957年鳥取市生、鳥取西高校卒、東海大学工学部応用物理学科卒、The University of Sunderland修了、23年間医療・健康機器研究開発に従事。2004年ロシア・台湾・日本三カ国出資の医療・健康機器・体外診断医薬品の輸出入販売・製品企画研究開発を行うメーカーを埼玉県さいたま市にて経営。創業23年目の今年、代表取締役社長を長男に承継し会長となるのを機に、故郷鳥取県にこれまで世界に事業展開してきた経験を共有できればとの想いで参加。趣味はギター、古典落語（次男は五代目円楽一門会三遊亭萬丸）

⑤玉井瑛子　生まれて85年、ほぼ鳥取県内に居住。高齢になり老夫婦だけでは暮らしにくい世の中になりましたので令和6年7月娘夫婦を頼って宮城県仙台に転居しました。米子も遠くなりましたので東京在住の同級生（米東56期）にすすめられ県人会に入会させていただきました。職業は医師。転居直前の83歳まで仕事していました。趣味は、以前は旅行、最近では俳句です。

⑥植田真　西伯郡南部町（旧西伯町）育ち。西伯小・法勝寺中・米子東高・國學院大學出身。関東なんぶ会や東京米城会でご一緒する梅原俊治様にご紹介頂きました。中・高と吹奏楽部で、2019年の春・夏甲子園で母校の応援に参加できたことは忘れられません。大学は考古学専攻で（株）パスコで国内外の遺跡調査に参加しながら文化財調査に於ける測量技術向上を模索してきました。鳥取県の文化財保護に貢献したいです。

⑦信組由貴実　東京で暮らす中で、地元・鳥取とのつながりを改めて大切にしたいと感じたことが入会のきっかけです。仕事では企業の広報やブランド発信に携わり、地域の魅力を伝える取り組みにも関心があります。鳥取の穏やかな空気や人の温かさは、今も自分の軸になっています。これから県人会の皆さまと交流できることを心から楽しみにしております。

⑧石井浩　倉吉東高同期の小林淳さんの紹介で入会しました。現在は学習塾でアルバイトしながら、日本在住の外国人に日本語を教えるボランティア活動に精を出しています。最近は趣味らしい趣味もないのですが、久々に登山を始めようかと考えています。どうぞ、よろしくお願いします。

⑨前田一真　鳥取市（旧国府町）出身。民俗学が好きで、趣味で近現代の暮らしの聞き取り調査や民具収集を行っています。最近は地元の国府町の歴史をより深く調べるため、くずし字の勉強も始めました。県人会に参加したのは、仕事の幅を広げることはもちろん、鳥取の歴史や文化を後世に残す活動の話などをできる人と出会いたいと思ったからです。趣味は旅、F1観戦、映画鑑賞、博物館巡りです。キャッシュレス決済を普及させる仕事をしています。

⑩中澤泰徳　はじめまして。八芳園のお膝元でenoteca Roccoという小さなイタリア料理店を営んでおります。実は八芳園の創業者が佐治町のご出身と知り、不思議なご縁を感じております。開店してまだ1年、東京におお住まいの鳥取の皆様にぜひ足をお運びいただきたく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

⑪田中大輔　鳥取から上京して気づけば30年近くがたちました。すっかり東京の暮らしにも慣れましたが、鳥取の自然やご飯が恋しい今日この頃です。仕事は都内でデジタルサービスの企画を担当しています。サッカー観戦とゴルフが好きです。

⑫渡部友一郎　鳥取市出身の企業法務の弁護士(42)です。鳥取大学附属中学校、鳥取西高校を卒業後、東京大学法科大学院を修了し、現在は米国IT企業の日本法人で取締役・法務本部長を務めております。ふるさとへの恩返しとして、本年、鳥取大学みらい基金を通じて母校の中学校へ寄付をしたいと考えております。まだまだ至らぬ点ばかりですので、皆様から故郷のことを学ばせていただきながら、ふるさとのつながりを深めてまいりたいです。

⑬梅津正博　製薬企業に勤務して営業の仕事をしております。同じ八頭町出身の石破茂議員が首相になって郷土愛が刺激され、県人会に入会しました。中央中学校を卒業したあとは県外の高校に進学し、そのまま鳥取に戻ってくることありませんでした。遠くから郷土を見守る愛の形もあると思います。

⑭八角二美　高校を卒業してからずーっと東京に居ます。今まで県人会の存在を知らなかったので入っていませんでしたが、もともと鳥取愛はありましたので入会させて頂きました。現在は上野で子供3人と夫婦の5人家族です。身体を動かす事が好きなので毎日スポーツジムに通いダンスを中心にあらゆるジャンルのスポーツを趣味としてます。ながら健康管理をしています♪これからは鳥取出身の方々と情報交換をしながら新たな鳥取の発見が出来れば！と思っています。

⑮福井浩之　1962年倉吉生まれ、東高・上智と進み、商社で24年間7か国駐在しバタバタしていましたが今は、やっと東京で落ち着きました。ソフトボールの投手で高3のとき国体出ました。今はゴルフ・スキー・登山など楽しんでいます。

⑯北川雄造　私の曾祖父は境港市本町で「貝田薬局」を経営していました。私は生まれも育ちも境港ではないのですが、先祖から曾祖父、祖父、母に至るまで境港がゆかりの地です。現在も父と母は境港市本町に住んでおります。私の本業は「事業承継M&A」です。資本を持つプレイヤーや私どもも含めた都市部のプレイヤーは地方の「事業承継課題」にはあまり目を向けていません。そのような中、私は鳥取や境港でこの社会課題が少しでも解決するよう、ルーツである境港に貢献できるよう、自ら動いていこうと考えております。

⑰野坂まりあ　「星空舞の七夕ワンプレート」のプロデュースがきっかけで入会しました。仕事は、フリーアナウンサーとワンプレートスタイリストの2軸です。盛り付けサロンをしながら、米子のDARAZ FMでパーソナリティー、番組出演、司会、ナレーター、米子弁方言指導の仕事をしています。

⑱井上光亮（中部）
⑲小澤正義（西部）
⑳樋野和男（西部）
太田公昭　本会には、倉吉東高の同級生である市川祐一郎さんの熱心なお誘いで入会しました。大学4年間、千葉県船橋市前原にあった「鳥取県学生寮明倫館」でお世話になったご縁もあって、千葉県で中学校の教員をやり、定年退職後も令和7年度末まで教育関係の仕事に携わってきました。現在は完全退職して年金生活ですが、おかげさまで元気に過ごしています。趣味は読書と散策です。

梨花

題字／故西尾邑次元名誉会員揮毫

第81号
2026年10月30日発行
東京鳥取県人会事務局
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館10F
電話　03(5212)9178
FAX　03(5212)9079
発行責任者／長尾克己
編集／県人会広報部会
https://www.pref.tottori.lg.jp/tokyokenjin/

鳥取から世界にはばたく、進化する老舗
千代むすび酒造㈱
代表取締役会長　岡空 晴夫
代表取締役社長　岡空 聡
鳥取県境港市大正町131
TEL：0859-42-3191　FAX：0859-42-3515

人を想う。未来を創る。
enetopia
鳥取ガス株式会社　鳥取ガス産業株式会社
代表取締役社長　佐藤 陽子
鳥取県鳥取市五反田町6番地

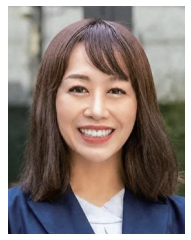
稲田屋
清酒「稲田姫」と
鳥取の味を、東京で。
都内各店＆米子/inataya.co.jp

株式会社チュウブ
取締役会長　大田 英二
〒103-0015　東京都中央区日本橋箱崎町20-7
ITOビル6F
TEL 03-5640-8122
FAX 03-5640-8100

地域の夢、お客様の夢をかなえる
創造的なベストバンク
山陰合同銀行　東京支店
支店長　中島 善衛
（2025年7月14日より新店舗へ移転）
〒103-6010 東京都中央区日本橋二丁目7番1号
東京日本橋タワー10階
TEL:03-3279-5555　FAX:03-3279-5606
URL:http://www.gogin.co.jp

《地方創生ばなし》
「ここで暮らしたい」を、応援できる場所に

KINDLER株式会社 代表取締役　門脇明日香



鳥取で暮らしながら、やってみたい仕事に挑戦できる。生まれ育った町で、新しいことを学べる。そんな選択肢を、一つでも増やしたいと思っています。

私は東京大学大学院でAIを研究し、ソニー、IT企業での勤務を経て、KINDLER株式会社を創業しました。学んだ技術を、どう人の暮らしや仕事に役立てるか。その問いを追いかけ、今、力を注いでいるのが、実践型ASIスクール「MIRAI CAMP（ミライキャン）」です。

日本最大級を目指して展開するこのスクールで大切にしているのは、知識を覚えることより、「自分にもできた」という体験です。2日間で、自分のアイデアを動くアプリにする。お店の魅力を伝える文章や画像をつくる。仕事の困りごとを解決する。「難しそう」が「もっとやってみたい」に変わることが、学びの出発点です。

この2日間をきっかけに、仕事や生き方への向き合い方が変わったという声も、次々に届いています。私がうれしいのは、技術が使えるようになること以上に、その人の中に新しい可能性が生まれることです。

そして、MIRAI CAMP（ミライキャン）は、一度学んで終わる場所ではありません。変化の速いAIや新しい技術を、仲間と一緒に学び続けるコミュニティでもあります。一人では追いきれない変化も、「これ、使ってみたよ」と共有できる仲間がいれば、楽しみに変わります。

原宿に1校舎目を立ち上げると、全国各地から受講生が集まってくださいました。そして、「こんな場所が、自分の地元にもあったらいいな」という声をいただくようになりました。遠くから足を運んでくださる方々と出会ううちに、この場所を都市部だけのものにしたくないという思いが強くなりました。

その思いから、全国へのフランチャイズ展開を進めています。「この町が好き」「地元の人の役に立ちたい」という方が、地域に教室を立ち上げられる仕組みです。最初からAIの専門家である必要はありません。本部が教材や講師育成、開校・運営を支え、一緒に育てていきます。

地元のお店の方が、仕事の相談をしに来る。子育てが一段落した方が、新しい学びを始める。若い人が、自分のつくったものをうれしそうに見せてくれる。鳥取に増やしたいのは、そんな、人の顔が見える場所です。

一人の「できた」が、身近な誰かの「私もやってみよう」になる。その積み重ねが、町の新しい力になると信じています。

「鳥取に、こんな場所があったらいいな」。そう思ってくださる方がいれば、ぜひ一緒につくっていきたいです！鳥取の仕事や暮らし、人のつながりを大切にしながら、未来への一歩を創造してまいります！

東京鳥取県人会のホームページを開設します

広報部会　松田誠司

このたび、東京鳥取県人会では、会員の皆さまに県人会の活動をより身近に知っていただき、また、東京鳥取県人会の認知を高め、東京近郊にお住まいの鳥取ゆかりの方々に、東京鳥取県人会へ興味を持っていただき会員への加入につながるように、ホームページの開設に取り掛かっています。

これまで東京鳥取県人会の活動については、会報梨花や「総会懇親の集い」を始め各種イベントを通じてお知らせしてまいりました。しかし、会員の皆さまの中には、日頃なかなか東京鳥取県人会の活動に参加する機会がない方や、最近入会されたため、これまでどのような活動が行われてきたのかご存知ない方もいらっしゃることと思います。

今回開設するホームページでは、東京鳥取県人会の活動内容や行事のお知らせ、高校同窓会を始め、ゆかりの団体の紹介など、会報梨花やメルマガ「とっとり@東京インフォメーション」では十分伝えきれなかったよりリアルでタイムリーな情報を発信していく予定です。また、ホームページを、単に情報を掲載するだけの場ではなく、「人と人をつなぐ場」として育てていきたいと考えています。東京鳥取県人会には、出身地や年代、職業などの異なるさまざまな方が参加されています。そうした多様な会員の皆さまが、それぞれの経験や知識、ふるさとへの思いを持ち寄ることで、新たな交流や価値が生まれることを期待しています。



特に、若い世代の方や、東京鳥取県人会の存在をご存じない方にもホームページを通じて触れていただき、「同じふるさとにゆかりがある」というつながりをきっかけに、新しい仲間が増え、世代を超えてふるさとのつながりを受け継いでいくことを願っています。

ホームページは、皆さまからの情報やご意見によって、少しずつ充実されていきます。「こんな情報を掲載してほしい」「こんな活動を紹介してほしい」といったご意見や、思い出などがございましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

これからも皆さまと一緒に、時代に合わせた新しい東京鳥取県人会のコミュニケーションの形をつくってまいります。

【ホームページ開設スケジュール】
令和8年10月中旬　テスト公開
令和9年1月中旬　公開
ドメイン名：tokyotottori.com

随想リレー

県人会に思う

東京鳥取県人会　副会長
武田　博史（岩美町浦富出身）



伝統ある鳥取県人会は、私は「奇跡の会」だと思っている。日本全国を見渡しても、これほど幅広い世代と分野の人々が、一つの県を縁として一同に集う組織は決して多くない。いや、知らない。人口最少県だからこそ生まれた一体感は確かにある。しかし、それだけでは説明できない。七百数十人の会員の中には、首相経験者から学生まで、日本の政治、経済、学術の第一線で活躍された方々、そして今なお現役で挑戦を続ける方々、主婦（夫）にOB.OGと多彩な集まりである。この多様性こそ県人会の大きな財産であり魅力ではないだろうか。

今日の県人会があるのは、故郷を思い、会を支えてこられた先達、先輩方の長年のご尽力の賜物である。その歴史への感謝を決して忘れてはならない。

県人会の歴史や目的を考えるとき、私の故郷岩美郡の関東の会である「東因会」の成り立ちが思い浮かぶ。初代国連大使・澤田廉三先生らが約八十年前に創設された歴史ある会である。因みに澤田廉三先生は当県人会の七代会長でありこの機関紙「梨花」の創刊者であると聞く。当時は交通網も未発達で、SNSなど情報を共有する手段も存在しなかった。それでも東京を拠点に活躍された先輩方は、故郷から上京した若者の視野を広げ、視座を高めようと、無償で力を尽くされたと聞く。まさにノブレス・オブリージュの精神であり、先輩であるメンターと後輩であるアスピラントが信頼で結ばれた関係であった。その延長線上に現在の東因会があるのは言うまでもない。想像であるが、更に歴史ある東京鳥取県人会もまた往時の世相からおそらく先人達の同じような思いが創った会であっただろう。

一方で、現在はどうか。県人会は人生の後半を迎えた先輩方が、同じ鳥取県出身という共通項を通じて、交流を深め豊かな時間を楽しむ場でもある。それは大切に守るべきこの会の役割の一つである。

しかし、もう一つの使命である若者への支援、次代のリーダー育成については、さらに可能性があるのではないだろうか。あえて申し上げれば、若い世代は県人会にビジネスや新たな挑戦、人との出会いなど、さまざまな機会の創出をもっと求めてよいと思う。そして私たちも、その期待に応えられるプラットフォームを一定のルールのもとで築いていく責務がある。それこそが先輩方から受けた恩を次代へ送る「恩送り」ではないだろうか。またそれこそが若者の目をこの会に向ける大きなキーであるような気がする。人材の育成なくして鳥取の未来も日本の未来もない。

縁あって副会長を仰せつかっている一人として、県人会の未来を思い描きながら、そのようなことを思う日々である。

北栄町から世界へ
口サンゼルス五輪で世界最速を目指す

スピードクライミング女子日本代表　林かりん

第20回アジア競技大会が32年ぶりに日本で開催され、この大会にスピードクライミング日本代表として出場しました。予選、準決勝と目指していた6秒台を出すことができ、7位入賞という結果を収めることができました。会場での大きな声援をはじめ、いつも応援してくださる皆様のおかげです。たくさんの応援が本当に力になりました。ありがとうございました。

私は、2019年、中学2年生の時に本格的にクライミング競技を始めました。スピード種目を始めたきっかけは、日本スポーツ振興センターのアスリートパスウェイの戦略的支援事業（地域タレント発掘・育成事業で、当時パリオリンピックでのメダル獲得を目指すものでした）の募集があったからです。2019年10月当時、スピード壁を県で保有していた、岩手県、鳥取県、愛媛県3県の中学生が対象だったので応募することができました。北栄町で生まれ育ち、隣の倉吉市に倉吉スポーツクライミングセンターがあり、ここにスピード壁があったこと、これは私自身にとって運命的だったと感じずにはいられません。

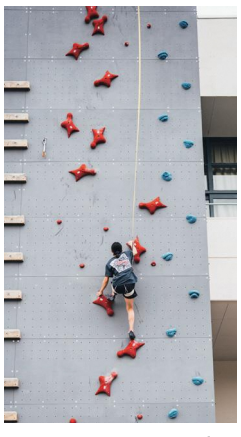
スポーツクライミングと聞くと、「ボルダリング」競技を思い浮かべる方が多いと思います。スポーツクライミングには、「ボルダー」「リード」「スピード」の三つの異なる種目があります。ボルダー、リード種目は、大会ごと、ラウンドごとに壁と課題が変わり、その攻略法を見出していく種目です。毎回同じ壁で同じ課題を登るスピード種目は、ボルダー・リードとは異なる性質を持っており、高さ15メートル（5階建てのビルに相当）、手前に5度傾いている壁をどれだけ速く登り切るかで勝敗が決まる、スプリント競技です。ホールドと呼ばれる突起物の配置や数（20個のホールドと11個のフットホールド）は世界中のどの大会でも共通で完全に固定されています。どの大会でも同一条件となるため、陸上競技や水泳競技のように日本記録や世界記録があります。

今年3月には、大変ありがたいことに後援会を発足していただきました。国内の各所に、ボルダリングのジムは増えましたが、スピード種目は、前述した通り高さ15メートルの壁が必要なため、練習場所が限られます。また、W杯では世界各地を転戦するため遠征費もかなりの額になります。今後も地元の鳥取・北栄町に根ざしながら、速さを磨き、自分らしいクライミングをしていきたいと考えています。2028年には、ロサンゼルスオリンピックが開催されます。ここでのメダル獲得を目指し、日々精進してまいりますので、ぜひ応援いただけたら嬉しいです。



林かりん
2005年生まれ。鳥取県北栄町出身、在住。鳥取県立鳥取中央育英高校卒。鳥取県山岳・スポーツクライミング協会所属。世界ランキング37位、日本ランキング1位。

プロフィール



スポーツクライミングで壁を登る林かりんさん

講演会

プロフィール

鳥取県の釣り場情報
家族連れからベテランまで楽しめ豊富な魚種

鳥取県の海岸は、東部の磯・漁港、中部の砂浜・河口、西部の弓ヶ浜・境水道など、地域ごとに異なる釣り場が連続するのが特徴。アジ、キス、チヌ、シーバス、ヒラメ、アオリイカ、青物など魚種も豊富で、春夏秋冬それぞれに狙える魚が変わります。初心者や家族で楽しめる釣り場から、ベテラン向けの本格的な磯・ルアー釣りまで、一年を通して楽しめる海釣りが鳥取の大きな魅力です。

身近な場所で、いろいろな魚が釣れる、今日は何が掛かるか分からない。釣った魚を食卓で味わえることが最大の魅力です。

帰省された折には、魚釣りをお楽しみに下さい。(下図は主要な釣り場)



東部

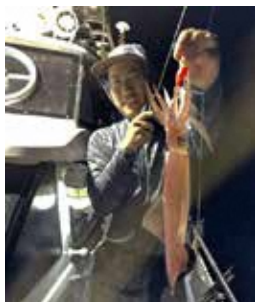
変化に富んだ海岸で多彩な釣り

岩美町から鳥取市にかけては、砂浜・漁港・磯が連続し、変化に富んだ海岸で多彩な釣りが楽しめる。鳥取港・賀露港ではアジ、キス、チヌ、シーバス、千代川河口ではシーバスやマゴチ、岩美方面ではアオリイカや根魚などが狙える。春秋のイカ、夏のキス、秋冬の青物など、季節ごとに楽しめるのも魅力です。

夏場のシロイカ（標準和名はケンサキイカ）釣りが全国的に有名。おもに船からの釣りが中心ですが、初心者からベテランまで幅広く楽しめますのでオススメです。

春
アジ、メバル、チヌ、アオリイカ
夏
キス、アジ、チヌ、シーバス、キジハタ、シロイカ
秋
アジ、アオリイカ、サゴシ、青物
冬
アジ、メバル、カレイ、サワラ

協力：かめや釣具鳥取店　店長 吉田有佑さん


鳥取沖　シロイカ


鳥取東部　シーバス


鳥取東部　キジハタ



鳥取港　アジ


白兎海岸


鳥取東部　アオリイカ

中部

投げ釣りからルアーなど多様な楽しさ

湯梨浜町から、北栄町、琴浦町にかけては、広い砂浜・河口・漁港が続き、投げ釣りからルアー、サビキ、エギングまで多彩な釣りが楽しめる。北条海岸ではキス、河口ではシーバスやヒラメ、漁港ではアジ、チヌ、カマスなどが狙える。春秋のイカ、夏のキス、秋冬の青物など、季節ごとに楽しめるのも魅力です。

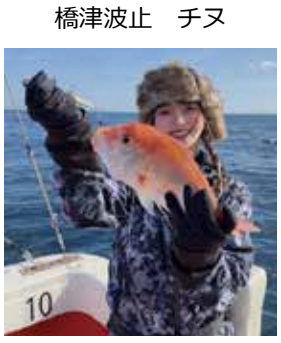
春
アジ、メバル、チヌ、コウイカ
夏
キス、アジ、チヌ、マゴチ、シロイカ
秋
アジ、アオリイカ、カマス、青物
冬
カレイ、ヒラメ、シーバス、アジ

協力：釣り具のくらもと　蔵本忠彦さん
協力：琴浦町観光協会


橋津波止　チヌ


夏泊港　アカビラ


橋津川　ハゼ


赤碕漁港沖　レンコダイ


赤碕漁港沖　大ダイ


石脇突堤　アオリイカ

西部

シロイカなど季節ごとの魚種の豊富さ

米子市から日吉津村、境港市にかけては、砂浜・漁港・岸壁・堤防・境水道・中海と多彩な釣り場が揃い、魚種も豊富です。弓ヶ浜ではキス、淀江、日野川河口ではヒラメやマゴチ、夢みなと公園ではアジや青物、境水道ではキス、エノハ、セイゴ、小鯛、チヌなどの五目釣り。春秋のイカ、夏のキス、秋冬の青物など、季節ごとに楽しめるのも魅力です。特に夏場のシロイカ釣りは有名です。

春
アジ、チヌ、キス、コウイカ、ヒラマサ、ヒラメ
夏
キス、エノハ、アジ、マゴチ、シーバス、キジハタ、シロイカ
秋
アジ、アオリイカ、サゴシ、キス、青物
冬
アジ、チヌ、シーバス、サワラ、ヤリイカ

協力：アングル境港店　店長　福井大智さん


美保湾沖　シロイカ


中海　シーバス


境水道


夢みなと公園


境水道　メバル


境水道　小鯛、キス、アオハタ

同窓会だより
「大阪鳥取県人会」
鳥取への思いつなぎ70年　親睦や交流重ねる

大阪鳥取県人会会長　西谷友香里

東京鳥取県人会の皆さま、はじめまして。大阪鳥取県人会会長の西谷友香里です。

大阪鳥取県人会は、関西に暮らす鳥取県出身者、鳥取にゆかりのある方、そして鳥取を応援してくださる方々が集い、人と人とのつながりを育んでいる会です。70年以上にわたり、諸先輩方がふるさと鳥取への思いを大切につなぎ、親睦や交流を重ねてきました。

その長い歴史を受け継ぎながら、今、大阪鳥取県人会は新しい一歩を踏み出そうとしています。

会員の高齢化や会員数の減少、活動のマンネリ化が、大阪鳥取県人会にとって長らくの課題でした。これまでの良き伝統を大切にしながらも、今までと同じやり方だけではなく、時代に合わせた新しい改革をする必要があると考え動き出しました。

その一つとして、70年以上にわたる大阪鳥取県人会の歴史で初めてとなる女性会長の就任になります。44歳という年齢で、しかも初めて立候補という形で会長に就任したことは、会にとっても大きな転機となりました。「若い世代にも関わってもらえる県人会にしたい」「鳥取に縁のある人を応援できる会にしたい」という思いをもとに、少しずつ新しい風を吹き込んでいます。

新会長就任後は、若い会員も少しずつ増えてきています。今後は若い会員にも役員として積極的に参画してもらい、世代を超えて意見を出し合える、活力ある会を目指していきたいと考えています。また、東京鳥取県人会をはじめ、各地の県人会とも交流を深め、地域を越えて鳥取を盛り上げていくことも大切な取組の一つです。

大阪鳥取県人会は、ふるさとを懐かしむだけの会ではなく、新しい出会いや挑戦が生まれる会へ。関西から鳥取愛を元気に発信し、鳥取に縁ある方々の輪を広げてまいります。


西谷友香里・
大阪鳥取県人会会長

同窓会だより
「柏朋会関東支部」
今年34周年　フレンドリーな会目指す

柏朋会関東支部代表　友定 義晴

米子北高校卒業生の関東地域における同窓会「柏朋会関東支部」は、平成2年に池袋で発足し今年34年目を迎えます。

当時の名簿には４００人以上の方の名前が関東地区にありました。毎年、往復ハガキ、電話、メール、ライン等でご案内させて頂きながら名簿を整理して現在は１００人程度となりました。

会場も池袋、下北沢、新宿、新橋、大森と場所と時間を変えて開催してきましたが、参加者にはほとんど変化がないため、毎年11月の第二土曜日に固定して各回15人前後の開催となっています。会員不足は他校でも問題視されています。

後輩には東京オリンピック競泳平泳ぎの武良竜也くん、サッカーボール４個で故岡本和彦先生（奥様の聡子先生）が起こしたサッカー部は今夏創部60周年記念の式典を開催、ＯＢにはＪリーガー13人を輩出。うち３人（兄弟）が日本代表に選ばれ、Ｗカップには昌子源、佐野海舟の両君が出場しました。

米子北高の同窓会は毎回フレンドリーな会を目指し、今年は11月14日（土）18時から大森ホルモン会館にて開催を予定していますので、皆様のご参加をお待ちしています。

柏朋会関東支部 同窓会
日時：11月14日（土）18：00～
場所：大森ホルモン会館
https://horumon-kaikan.gorp.jp/





W杯に出場した佐野海舟選手（写真左）と昌子源選手（同右）のユニフォーム。
米子北高の正面玄関に展示されている。

「美術鑑賞とグルメの会」
ダ・ヴィンチの「美しきフェロニエール」
奥深い魅力の解説に感動

交流部会　河崎妙子

東京鳥取県人会の人気イベント「美術鑑賞とグルメの会」が９月15日、表参道の「ＴＡＶＥＲＮ ｂｙ ｔｈｅ ｇｒｅｅｎ」で開かれ、約30人参加しました。

今回のテーマは、９月９日から国立新美術館で開催されている「ルーヴル美術館展　ルネサンス」。ブログ「青い日記帳」主宰で美術ブロガーの中村剛士氏を講師に迎え、今回初来日となるレオナルド・ダ・ヴィンチの「美しきフェロニエール」を中心に、作品の鑑賞ポイントを解説していただきました。

《美しきフェロニエール》には「定まらない視線」という謎があり、明確な答えが描かれていないからこそ、５００年以上の時を経た今も、私たちは彼女の心を知ろうとその表情を見つめ、さまざまな解釈を重ねたくなる―。そんな作品の奥深い魅力についてのお話は、大変興味深いものでした。

今回は、一つの作品に絞り、さまざまな角度からじっくり解説していただく初めての試みでした。参加者からは、「こんな見方があったのか！」、「素晴らしい解説でした」、「もっともっとお話を聞きたい」といった嬉しい声をたくさんいただきました。

トークの後は、フレンチのコース料理を楽しみながら、芸術の話はもちろん、故郷・鳥取の話にも花が咲き、和やかな交流のひとときとなりました。

来年度も引き続き開催していきたいと思います。「興味のある展覧会」や「行ってみたいレストラン」など、ぜひ情報をお寄せください。


「美術鑑賞とグルメの会」の参加者＝
９月15日、東京・表参道で

「大相撲鑑賞会」
伯乃富士に１０４人が大きな声援

渋谷川ルネッサンス事務局長兼代表代行行　石井健蔵

９月24日、久しぶりの秋晴れのもと、東京・両国国技館での大相撲秋場所を観戦した総勢１０４人の東京鳥取県人会の大応援団。倉吉商工会議所から全員の手に渡されたクリアファイルに記された「頑張れ！伯乃富士」「てっちゃんがんばれ！」の文字が一斉に挙がった姿は相当インパクトがあったらしく、ＮＨＫテレビで解説の尾車親方（元大関・琴風）が思わず、「倉吉から１００人もの大応援団が来ていますね」と、言葉を漏らす場面がありました（正確には、倉吉から来場しているのは10人くらいなのですが、そこはご愛嬌ということで）。

今場所、小結となった伯乃富士関ですが、小結の宿命、前半は上位力士と当てられ、後半は疲れた状態で相撲を取るという慣れない役割のためか、今場所は５勝10敗の成績となりました。

懇親会では「みなさんの応援が足りなくて負けました」と会場の笑いを誘いつつも、「こんな成績でいいわけがない、来場所はもっと勝てるよう、より稽古とがこのてさ　な所い撲後上が、っだされる方にご参加いただいております。引き続きマナーを守りつつ楽しく応援・懇親が行われるよう、ご支援ご協力をお願いいたします。



懇親会で挨拶する伯乃富士に「てっちゃんがんばれ！」と書かれたクリアファ（写真左）。
９月の秋場所の土俵を踏む伯乃富士に「頑張れ！伯乃富士」と書かれたクリアファイル（写真右）。



【編集後記】

大雨が続き、台風が相次いでいます。川が氾濫し、千葉では被害がいまだ続いています。農作物や漁業への影響も深刻化しています。地球温暖化の脅威をまざまざと見せつけられている思いです。10月12日、東京鳥取県人会の総会があり、県人会会長ら役員が交代しました。このため題字ある発行責任者名や文中の一部の方の肩書を差し替えました。

会員からの近況便り（５００字）、読者の感想（２００字）をお待ちしております。事務局宛てに手紙、ＦＡＸ、メールでお寄せ下さい。

編集子